

## 令和元年度卒業生・修了生への祝辞

奈良大学をご卒業・修了される 467 名の皆さん、誠におめでとう  
ございます。教職員一同、皆さまのご卒業・修了を心からお祝い申  
し上げます。

あわせて、これまで卒業生の皆さんを支えてこられたご家族や保  
護者の方々にも、心よりお慶び申し上げます。卒業までの間、本学  
に賜りましたご支援とご協力に改めまして感謝申し上げます。

この度は卒業式・学位授与式という、学生生活における重要な節  
目に当たる式典を中止するという重大な判断をいたしましたこと、  
まずはお詫び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が国内外で拡大している現在の状況下  
で、奈良大学としてどのような形を取るべきか慎重に検討してまい  
りました結果、学生・教職員、関係各位の健康・安全を最優先に考  
え、また大学として果たすべき感染拡大防止の社会的責任の観点か  
ら実施することは極めて困難であると判断し、中止という苦渋の決  
断を取ることとなりました。このような厳しい結論になりましたこ  
と、ご理解いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、この度卒業生・修了生の皆さんが手にされる学位記は、それぞれの学  
業を終えられた証であります。奈良大学入学の日から今日まで、皆さんは勉学  
に励み、多くの人と知り合い、また、皆さん自身の価値を高めるためのさまざ  
まな活動を経験しながら、卒業の日を迎えられました。その間、多くの困難が  
あったかと思いますが、それらを乗り越えてきた皆さんの勇気と努力に対し、  
敬意を表したいと思います。卒業生の皆さんの新しい門出にあたり、学長とし  
てはなむけの言葉を贈りたいと思います。

まず、通信教育部の文学部文化財歴史学科の学びを修められた 50  
名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。通信教育部に学ばれた  
多くの方は、すでに社会の中で様々な役割を果たしながら、文化財  
学・歴史学の研究を強く志され、その集大成としての研究成果を卒  
業論文にまとめられ、卒業という晴れの日を迎えられました。その  
素晴らしい精神力とたゆみない努力を、称えたいと思います。くじ  
けそうになったことも何度かあったのではないのでしょうか。仕事・  
家庭や、日々の果たすべきことと学業・研究との両立は大変だった  
かと推察いたします。それらを乗り越えて、研究を続け、卒業論文を  
書き上げられたことに、心から敬意を表します。皆さんには、すばらし  
い学習への意欲と努力する力があります。この力を是非、今後の新たな目標の

実現に活かしてほしいと思います。

次に、文学部・社会学部を卒業された400名の通学部のみなさん、卒業おめでとうございます。皆さん方は、創立以来の伝統である、「生きた学問」の実践と経験により、それぞれの学問領域の理論と技能を修得し、自立心や主体性を養い、さまざまな課題への適応力や問題解決能力を身につけられたことと思います。これらの力は、変化の激しい現代社会にあっては今後ますます重要度が高まるものであり、これからの厳しい時代を大学で培われたこれらの力を活かして堂々と生きてほしいと思います。

そして、大学院の学位を授与された19名の皆さん、日々の研鑽を通じ研究科において切磋琢磨された皆さんが、大学院において専門を修め、その専門において自立できる力が本日奈良大学学位の授与という形で認められました。これからは、授与された学位を誇りとし、身に付けた専門を活かして、我が国や世界が直面する様々な問題に果敢に挑戦し、社会のリーダーとして更なる飛躍を遂げていただきたいと思います。今年はまだ、3名の方が博士の学位を授与されました。皆さんの学位論文は、次世代への素晴らしい贈り物になると同時に、活躍される姿は目標ともなります。今後益々のご健闘を期待いたします。

さて、国の内外には数多くの難題が山積しています。世界を見渡すと、開発途上国を中心に人口は爆発的増加を続け、食料や水資源等の不足は一層深刻さを増し、今回パンデミックとなった新型コロナウイルス等の感染症リスク増大やテロの脅威、気候変動や生物多様性減少、安全保障環境の変化など地球規模での課題の深刻化が進んでいます。一方我が国は、エネルギー・資源・食料等の制約、人口減少時代の到来、高齢化にともなう社会コストの増大、また地域経済社会の疲弊といった課題を抱えています。このように重大な課題が山積する中で、AI、ICT、IoT、ロボット、ビッグ・データなどによる第4次産業革命が急速に進み、そうした第4次産業革命の波は、我々が想像する以上のスピードで押し寄せてきています。政府は、人類史上狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな5番目の社会像としてSociety5.0（超スマート社会）を提唱し、世界に先駆けて実現していくことを目標としています。その結果、産業構造、就業構造、社会経済構造自体に、現時点では予見できないほどの急激な変化が起こる可能性があります。

この大きく変化する世界で、皆さん自身は、今後さらに研鑽、経験を積みながら力強く生きていかなければなりません。このような変化の時代にどう向き合い、いかに課題を解決していくかは、わたくしたち一人ひとりの選択にゆだ

ねられています。奈良大学で学ばれた知識と経験、技能を基に、これらの諸問題に果敢に挑戦していただくことを期待してやみません。

さて、最後になりますが、大学を巣立っていく卒業生の皆さんが社会で活躍されることは、母校である奈良大学の真の評価にもつながっていきます。私は、全ての卒業生の皆さんのこれからの活躍に大いに期待するものです。同時に、皆さんも、何時までも「奈良大学の大切な一員」であることを忘れないください。皆さんへの本学の応援は、卒業したのちもずっと続きます。必要な時はいつでも母校を訪ねてください。そして、今、社会へさっそうと旅立つあなた方を前にして、これまでの学びに敬意を表し、素晴らしい旅立ちになりますよう、皆様の健康と幸せを心からお祈りして、私の祝辞といたします。

令和二年三月十九日

奈良大学長 清水哲郎